

赤星

月刊

11月2006年 No.60 (通巻402号)

本号300円

年間購読料 1部3000円 (送料別)
(送料) 密封1000円 開封800円

THE SEKISEI (RED STAR/ROTE STERN)

編集 共産主義者同盟 (DER BUND DER KOMMUNISTEN)

発行所 蜂起社 東京都江東区大島3-9-25/TEL 03-5626-8262

発行人 南 安明 (振替) 00120-2-1512 蜂起社・南安明

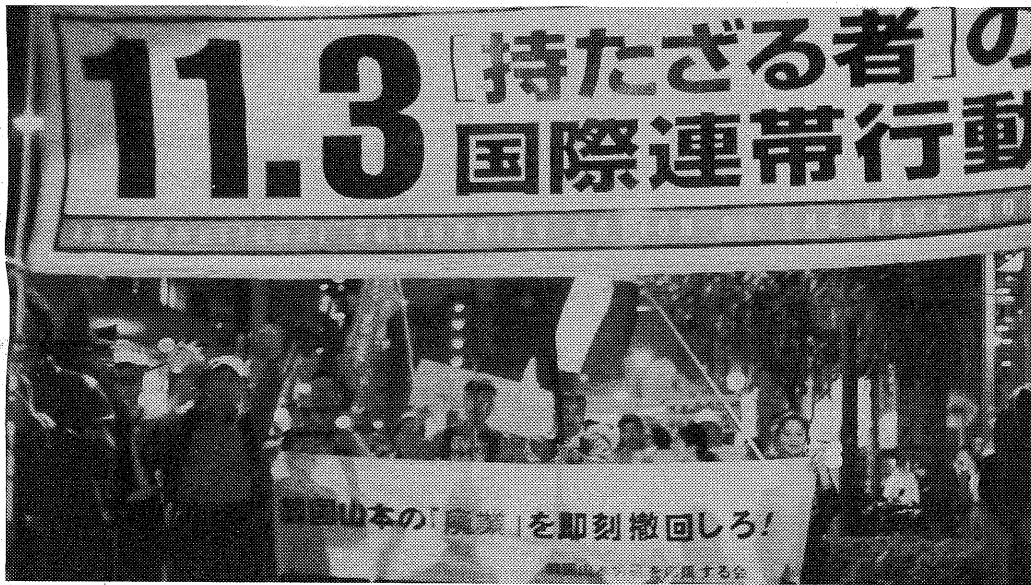
紙面案内

- ① 越境する国際連帯を!
- ②-③ 反グローバリズムのプロレタリア階級論 (VI)
- ④ 「持たざる者」の国際連帯行動 全都野宿者ハンスト/教基法/沖縄

お知らせ 次号(新年号)は12月下旬発行です。

「持たざる者」は国境を越えて連帯する

越境する国際連帯を!



(左上) 11・3 「持たざる者」の国際連帯行動 (東京)
 (右上) 11・12 ソウル米大使館近くの反米反戦平和集会
 (左下) 韓国民主労総の11・12労働者大会 (ソウル)
 (右下) 11・12建設産業労組のスト突入決起集会 (ソウル)

いくつものささえざる壁、
 弾圧、国境を越えて、
 「持たざる者」は連帯
 する! 世界を変える!

人間らしく生きたい、希望を取り戻したいと願い、「失業・貧困・社会的排除」に抵抗する「持たざる者」の心の奥底から振り絞った怒りの声が、世界の至る所で響いている。搾取も抑圧も排除もない、階級のない真に公正・平等で連帯に基づいた新しい社会の創造のために自らの解放を求めて闘い訓練を生きているプロレタリアが、世界中にいる。このプロレタリア・「持たざる者」の怒り・抵抗こそ、闘いと連帯の「掘り所」であり、革命への「希望」と「情熱」を燃やすエネルギー源である。

我々は、「もっと深く、下層へ」、「もっと広く、国境を越えて」、様々な差異やあらゆる困難、いくつものささえざる壁を乗り越えて、「越境する連帯」を築き上げなければならない。国境を越えた「持たざる者」の国際連帯をコメントに、「希望のインテリゲンチヤル」(サパテイスタ)を立ち上げよう。

11・3「持たざる者」の国際連帯行動(大阪は11・12)の成功と、11・11-12の韓国民主労総労働者大会・同建設産業労組スト突入決起集会への訪韓連帯行動をステップに反グローバルズム運動のうねりを創り出していこう。(写真参照)

反グローバルズム運動を前進させるには、そのための政治的・社会的な環境・土壌が整っていることが必要だ。植物の種をまいても土壌が整えられていなければ、水やりをしなければ芽が出ずうまくなるまいのと同じだ。不毛の荒地の土壌を整え、社会運動のすそ野を広げることには精力を注がねばならない。

国境を越えた「持たざる者」の国際連帯を掘り所に新しい社会運動のすそ野を拡大することによって、反グローバルズム運動の草の根の基盤を着実に前進させていくことだ。このことに「新しいラディカルな左翼」は、全力を傾けねばならない。そうしなければ、この国の左翼運動の未来も展望もない、と言える。

左翼には、グローバルゼーションと新自由主義政策の下での「失業・貧困・社会的排除」の増大に対して草の根の新しい社会運動・労働運動の創出を通して、労働者民衆の「怒り・抵抗・連帯」をおし広げるといふ最も重要な役割が与えられているのだ。

11・3-12「持たざる者」の国際連帯行動(東京・大阪)、11・11-12韓労働者の国境を越えた連帯・交流をステップに反帝・反グローバルズム運動へ!

反グローバリズムの プロレタリア階級論

〈横渡〉

《VI》

革命はプロレタリアの連帯の上に築かれなければならない

グローバリズム下の 失業・貧困・排除

グローバリゼーションと形容される現象にも取り、新自由主義が世界を覆い、上げられるほど最大の社会的・政治的テーマとして焦点化している。

「失業・貧困・排除」が経済協力開発機構(OECD)が7月20日発表した06年の「対日経済調査報告書」は、日本の所得格差の拡大を詳しく取り上げ、生活保護世帯が百万を超え、貯蓄ゼロの世帯が二割を超えているにもかかわらず、国民所得に占める社会保障給付額や教育支出は、先進諸国の中で日本は最低水準なのである。一方で、「競争と排除」が過激な「日本は、餓死や孤獨死や自殺の大国(鎌田慧)で、賃金が安く不安定な非正規労働者で充満し、規制緩和を推進してきた小泉政権の5年間で、「持てる者」はより富み、「持たざる者」はより貧しくなったことが具体的に示されている。

所得(格差)の拡大の背景には、競争至上主義に基づく規制緩和(柔軟化)政策の導入による労働市場(雇用)の構造的大変動があった。パート、契約、派遣、請負といった多様な不安定な就労形態を拡大し、正規職への社会保険適用を拡大すべき、危険回避を拡大すべき、③「父親が母親しかいない世帯の貧困が、他の先進国よりも進んでいる」として、貧困を固定化させないための低所得者向けの教育制度の充実、などを提言している。

先に報告書は、格差の拡大を抑えるために日本がとるべき対策として、①正規職を増やす雇用制度に改め、②非正規職への社会保険制度適用を拡大すべき、危険回避を拡大すべき、③「父親が母親しかいない世帯の貧困が、他の先進国よりも進んでいる」として、貧困を固定化させないための低所得者向けの教育制度の充実、などを提言している。

「生活保護世帯が百万を超え、貯蓄ゼロの世帯が二割を超えているにもかかわらず、国民所得に占める社会保障給付額や教育支出は、先進諸国の中で日本は最低水準なのである。一方で、「競争と排除」が過激な「日本は、餓死や孤獨死や自殺の大国(鎌田慧)で、賃金が安く不安定な非正規労働者で充満し、規制緩和を推進してきた小泉政権の5年間で、「持てる者」はより富み、「持たざる者」はより貧しくなったことが具体的に示されている。

「生活保護世帯が百万を超え、貯蓄ゼロの世帯が二割を超えているにもかかわらず、国民所得に占める社会保障給付額や教育支出は、先進諸国の中で日本は最低水準なのである。一方で、「競争と排除」が過激な「日本は、餓死や孤獨死や自殺の大国(鎌田慧)で、賃金が安く不安定な非正規労働者で充満し、規制緩和を推進してきた小泉政権の5年間で、「持てる者」はより富み、「持たざる者」はより貧しくなったことが具体的に示されている。

「生活保護世帯が百万を超え、貯蓄ゼロの世帯が二割を超えているにもかかわらず、国民所得に占める社会保障給付額や教育支出は、先進諸国の中で日本は最低水準なのである。一方で、「競争と排除」が過激な「日本は、餓死や孤獨死や自殺の大国(鎌田慧)で、賃金が安く不安定な非正規労働者で充満し、規制緩和を推進してきた小泉政権の5年間で、「持てる者」はより富み、「持たざる者」はより貧しくなったことが具体的に示されている。

経済還元主義的 階級論からの脱却

「階級論」を再構成する。世に注意深く選ばれていた。第②にグローバル資本(巨大多国籍資本)の収奪によるもたらされた経済的繁栄のおとぼせを享受できる上層労働者(管理・専門・技術職など)と、対極的に「新たな貧困」と「社会的排除」を被る「失業者」(不安定な非正規労働者)の対峙を呈している。「失業者」は半就業者への不断の転化(マルクス)が、「失業者」の半就業者への不断の転化(マルクス)を増大させ、今日の「新たな貧困」と「社会的排除」をもちた。だが、それから「世紀を経て新しいグローバリゼーション」の時代を迎えた今日、失業問題が、階級構造および変革主体の階級形成を考察する必要がある。

「生活保護世帯が百万を超え、貯蓄ゼロの世帯が二割を超えているにもかかわらず、国民所得に占める社会保障給付額や教育支出は、先進諸国の中で日本は最低水準なのである。一方で、「競争と排除」が過激な「日本は、餓死や孤獨死や自殺の大国(鎌田慧)で、賃金が安く不安定な非正規労働者で充満し、規制緩和を推進してきた小泉政権の5年間で、「持てる者」はより富み、「持たざる者」はより貧しくなったことが具体的に示されている。

「生活保護世帯が百万を超え、貯蓄ゼロの世帯が二割を超えているにもかかわらず、国民所得に占める社会保障給付額や教育支出は、先進諸国の中で日本は最低水準なのである。一方で、「競争と排除」が過激な「日本は、餓死や孤獨死や自殺の大国(鎌田慧)で、賃金が安く不安定な非正規労働者で充満し、規制緩和を推進してきた小泉政権の5年間で、「持てる者」はより富み、「持たざる者」はより貧しくなったことが具体的に示されている。

「生活保護世帯が百万を超え、貯蓄ゼロの世帯が二割を超えているにもかかわらず、国民所得に占める社会保障給付額や教育支出は、先進諸国の中で日本は最低水準なのである。一方で、「競争と排除」が過激な「日本は、餓死や孤獨死や自殺の大国(鎌田慧)で、賃金が安く不安定な非正規労働者で充満し、規制緩和を推進してきた小泉政権の5年間で、「持てる者」はより富み、「持たざる者」はより貧しくなったことが具体的に示されている。

「生活保護世帯が百万を超え、貯蓄ゼロの世帯が二割を超えているにもかかわらず、国民所得に占める社会保障給付額や教育支出は、先進諸国の中で日本は最低水準なのである。一方で、「競争と排除」が過激な「日本は、餓死や孤獨死や自殺の大国(鎌田慧)で、賃金が安く不安定な非正規労働者で充満し、規制緩和を推進してきた小泉政権の5年間で、「持てる者」はより富み、「持たざる者」はより貧しくなったことが具体的に示されている。

ついたモデルが今日でも通用すると考えること自体、固定観念に呪縛され時代錯誤なのである。現代のグローバルゼーションの下で、階級構造も大きく変容し、かつての階級形成モデルの中心に位置付けられていた「労働者」の輪郭も相当に異なった様相を呈している。「失業者」は半就業者への不断の転化(マルクス)が、「失業者」の半就業者への不断の転化(マルクス)を増大させ、今日の「新たな貧困」と「社会的排除」をもちた。だが、それから「世紀を経て新しいグローバリゼーション」の時代を迎えた今日、失業問題が、階級構造および変革主体の階級形成を考察する必要がある。

「持たざる者」の国際連帯行動勝ち取る

百数十名が結集 フランス、韓国から 連帯メッセージ

11月3日、「社会的排除に抗し、国境を越えた連帯を」を掲げ、「持たざる者」の国際連帯行動が東京・恵比寿区民会館ホールにて百数十名の結集をもって勝ち取られた。

集会ではまず司会より、2003年に始まる「持たざる者」の国際連帯行動の経緯と地帯が提起され、最初に海外からの連帯メッセージとして、フランスからこの7月に来日したDAL(住宅への権利)フワット・ビュローさんがNOVOXを代表して、韓国から民主労総建設産業連盟土木建築協議会議長のキム・ホジュンさんからのメッ

セージが読み上げられた。キム・ホジュンさんは、建設労働者の非道な弾圧に抗議して、8月末から実に44日間もソウルのオリンピック大橋の塔上で籠城闘争を継続し、日本からの連帯メッセージ(前号4面)に支え、籠城の渦中に「土方ノガタ」の監督キム・ミョンを通過して発信してくれたものだ。この二つの海外アピールに大きな拍手が送られた。

「精神病者集団、統制を打ち固め「持たざる者」の連帯をさらに推し広げ、前進させていこう」

「海外メッセージ」 フワット・ビュロー(フランス、DAL、住宅への権利 NOVOX)は、外国人労働者の組合APFS、アジア共同行動日本連絡会議、外国人セクスイーカー調査プロジェクト、米日から来日中の研究者ウィッド・グレイバーさん、ピールル・フ

連帯を前進させよう。貧困と失業、競争と排除、不正と不平等への怒りの行動を通して、グローバル主義の暴力と戦争に抗していこう(抜粋)との提起を全体で確認し、デモへ。渋谷宮下公園までのデモは、鮮やかな横断幕やタイレクトなメッセージを書いたプラカードが注目を集め、シュプレヒコールが響きわたった。

「精神病者集団、統制を打ち固め「持たざる者」の連帯をさらに推し広げ、前進させていこう」

「持たざる者」の国際連帯行動は、大阪の仲間5人が逮捕され、起訴されたという報告を受けました。野宿者の命を守るための活動が取り締まりの標的になることに強く怒りを感じます。フランスでも、今現在だけでも、住宅への権利運動の活動家3人、非正規滞在者の支援活動家1人、労働組合の活動家1人が行政によって訴えられ、裁判闘争が始まろうとしています。

いつも建設労働者の闘争に関心を持っていただきありがとうございます。日本の同志のみなさんに感謝するという連帯のメッセージを送り、強固な闘争でともに闘争に勝利しようとお伝えください。

11月6日、「東京都はおれたちの声を聞け!」11・6-10全都野宿者ハンスト闘争

11月6日、「東京都はおれたちの声を聞け!」11・6-10全都野宿者ハンスト闘争

11月6日、「東京都はおれたちの声を聞け!」11・6-10全都野宿者ハンスト闘争

11月6日、「東京都はおれたちの声を聞け!」11・6-10全都野宿者ハンスト闘争

11月6日、「東京都はおれたちの声を聞け!」11・6-10全都野宿者ハンスト闘争



11・3集会。韓国山本労組派遣団の発言

11・3集会。韓国山本労組派遣団の発言

教育基本法改悪採決弾劾

11月15日、安倍政権は、教育基本法改悪法案の採決(衆院特別委員会)を野党欠席のまま強行した。この法案は、安倍政権にとって改憲に向けての不可欠の重要な法案であり、戦後教育を覆し、教育への国家の介入・支配と戦争のできる国づくりに寄与するものだ。安倍政権は、臨時国会での成立(参院審議日程がギリギリ)にリミットに迫られ、この間の「やらせミーティング」で問題点を噴出してきているにもかかわらず、「審議は早く済ませよう」と、採決強行に踏み切ったのである。この暴挙を怒りをもち弾劾するつもりで、今国

沖繩から土田武信氏迎え 10・28辺野古実学習会

10月28日、「辺野古の自然を基地建設で壊すな」大浦湾の自然、遺跡、反対運動の今」をテーマに新基地の問題を明らかにし、学習会が、文京シビックホールで行われた(主催:辺野古実行委)。

10月28日、「辺野古の自然を基地建設で壊すな」大浦湾の自然、遺跡、反対運動の今」をテーマに新基地の問題を明らかにし、学習会が、文京シビックホールで行われた(主催:辺野古実行委)。

11月6日、「東京都はおれたちの声を聞け!」11・6-10全都野宿者ハンスト闘争

11月6日、「東京都はおれたちの声を聞け!」11・6-10全都野宿者ハンスト闘争

11月6日、「東京都はおれたちの声を聞け!」11・6-10全都野宿者ハンスト闘争